

なんでやねん

発行責任者 吉澤 周

No.10

第1回「ノート点検」を終えて

優秀なノートが多かったことに感激

はじめての「ノート点検」を行いました。結論から言うと、非常に君たちは優秀な教え子たちです。「A」評価のノートの比率が29%(18人)です。次に、「B」評価が62.9%(39人)で、「C」評価が6.5%(4人)でした(ページごとに評価して、平均点を提出時の評価とします)。第1回目なので、評価はやや甘い目をつけましたが、D以下が全くないことなんて、私はこれまでに一度も経験したことがありません。

ノートの評価基準とスタンプの意味

もう一度、ノートの評価基準を示します。全員が「A」を目指して欲しいと思います。

ただし、2回目以降の点検では、この評価基準通りに評価していくので、「右側のペー

ノートの評価基準		ノートの状況	評価
板書事項や説明をていねいにまとめ、自分で調べてことなど書き入れるなど工夫している。		A	
板書事項や説明をていねいにまとめ、読みやすく工夫している。		B	
板書事項をそのまま書き写している。文字もていねいである。		C	
板書事項をそのまま書き写している。しかし、文字が乱雑で読みにくい。		D	
板書事項をそのまま書き写している。しかし、配列が乱雑で読みにくい。		E	
板書事項を書き写している。しかし、欠落が多い。		F	
板書事項を書き写している。しかし、整理が乱雑で読み取りにくい。		G	
板書事項の書き写しに多くの欠落部分がある。		H	
指導を重ねても、ノートを取らない。		I	
指導を重ねても、ノートを書かない。		J	

ジ」に自分で調べたことなどが書き入れられていない場合は、最高の評価でも「C」にしかならないことを覚悟しておいてください。

評価の結果はスタンプで表しています(A[◎]の作品には特大スタンプを使います)。

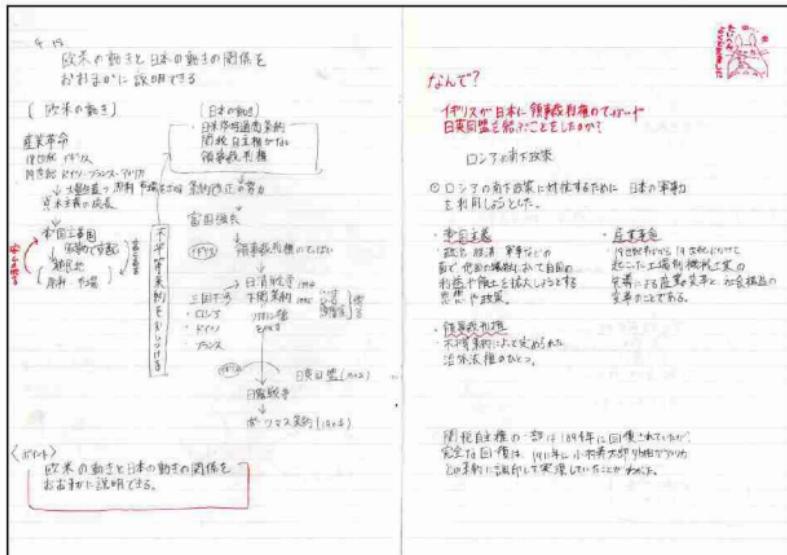


今回、この「なんでやねん」で紹介するノートは「A」評価の一部です。いろんなタイプのノートがあります。これが「個性」と私は思います。友達の「作品」を参考にして、自分のノートの完成度を高めてください。

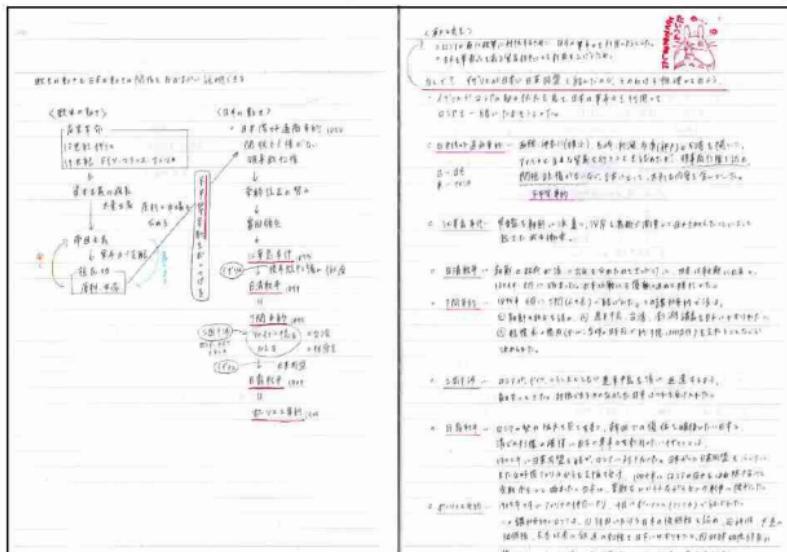
なお、後日に、私のホームページで公開しますので、webで公開されることが嫌な人は申し出てください(HPのアドレスは、www.nande2.jpです)。

「2年生時の学習の復習」のノート

作者「I・K」：キーワードを簡潔にまとめています。板書の下にも「ポイント」が書き入れられていて、後で分かりやすいように工夫がされています。



作者「M・T」：キーワードの意味を調べて簡潔にまとめています。ノートを書いてから発行された「なんでやねん」の説明も後から足して完成度を高めています。



「第一次世界大戦」のノート

作者「K・K」：板書の「キーワード」を明確にしています。自分の疑問を明確にし、た上で、調べています。感想文も入れ内容を思い出しやすくしています。

手書きノート

第6章 第一次世界大戦と日本

1. 第一次世界大戦
英米軍隊 → 帝国主義国

三国同盟 (1882) → ドイツ、オーストリア、イタリア
 フランス、イギリス、ロシア → **协约国**

イタリアは、最初は中立だったが、
 フランスが戦勝した大戦争だと、ついで日本に勝って
 ほしいと思うから、たぶん公使館で日本に詫びをしないように、この
 時に日本へ入り、オーストリア→イタリア

1. 1月開戦 → ドイツ、フランス、ロシア
 2. 7月開戦 → イギリス、オーストリア、トルコ
 3. 8月開戦 → フランス、イギリス、ロシア
 4. 10月開戦 → ドイツ、イタリア
 5. 11月開戦 → ドイツ、オーストリア、トルコ
 6. 12月開戦 → ドイツ、オーストリア、トルコ

第一次世界大戦 [オーストリア失敗]

第一次世界大戦の原因
 1. 帝国主義
 2. 帝國主義
 3. 帝國主義
 4. 帝國主義

第一次世界大戦の特徴
 1. 連合国と同盟国との陣営による戦争
 2. 破壊的戦争
 3. 破壊的戦争
 4. 破壊的戦争

日本参戦
 日本は、最初は中立だったが、イギリスが戦勝した大戦争だと、ついで日本に勝ってほしいと思うから、たぶん公使館で日本に詫びをしないように、この時に日本へ入り、オーストリア→イタリア

第一次世界大戦の特徴
 1. 連合国と同盟国との陣営による戦争
 2. 破壊的戦争
 3. 破壊的戦争
 4. 破壊的戦争

第一次世界大戦の特徴
 1. 連合国と同盟国との陣営による戦争
 2. 破壊的戦争
 3. 破壊的戦争
 4. 破壊的戦争

作者「M・T」：構造がつかみやすくまとめられたノートです。「メモ」欄は教科書の図版を書き写して、板書ノートだけでは足りない所を補強しています。

手書きノート

第6章 第二次世界大戦と日本

1. 第二次世界大戦
英米連合軍

三国同盟 (1882) → ドイツ、オーストリア、イタリア
 フランス、イギリス、ロシア → **协约国**

イタリアは、最初は中立だったが、イギリスが戦勝した大戦争だと、ついで日本に勝ってほしいと思うから、たぶん公使館で日本に詫びをしないように、この時に日本へ入り、オーストリア→イタリア

第一次世界大戦
 1. 連合国と同盟国との陣営による戦争
 2. 破壊的戦争
 3. 破壊的戦争
 4. 破壊的戦争

第二次世界大戦
 1. 連合国と同盟国との陣営による戦争
 2. 破壊的戦争
 3. 破壊的戦争
 4. 破壊的戦争

日本参戦
 日本は、最初は中立だったが、イギリスが戦勝した大戦争だと、ついで日本に勝ってほしいと思うから、たぶん公使館で日本に詫びをしないように、この時に日本へ入り、オーストリア→イタリア

第一次世界大戦の特徴
 1. 連合国と同盟国との陣営による戦争
 2. 破壊的戦争
 3. 破壊的戦争
 4. 破壊的戦争

第二次世界大戦の特徴
 1. 連合国と同盟国との陣営による戦争
 2. 破壊的戦争
 3. 破壊的戦争
 4. 破壊的戦争

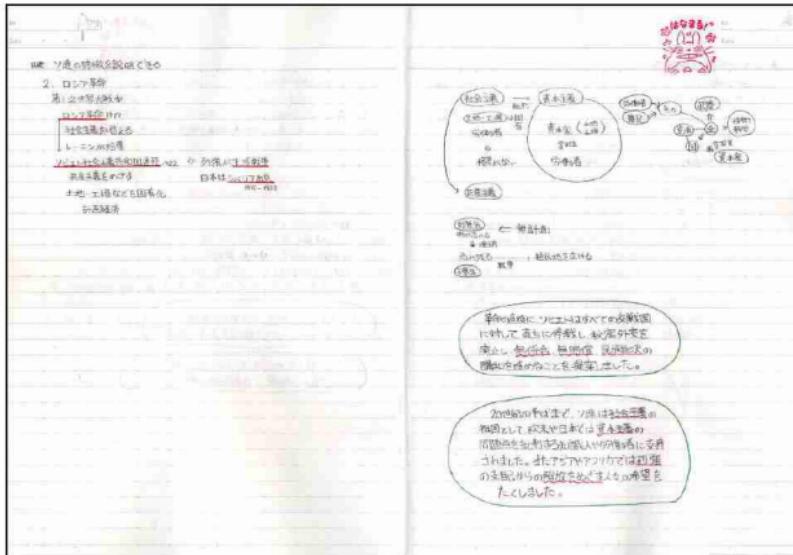
日本参戦
 日本は、最初は中立だったが、イギリスが戦勝した大戦争だと、ついで日本に勝ってほしいと思うから、たぶん公使館で日本に詫びをしないように、この時に日本へ入り、オーストリア→イタリア

第一次世界大戦の特徴
 1. 連合国と同盟国との陣営による戦争
 2. 破壊的戦争
 3. 破壊的戦争
 4. 破壊的戦争

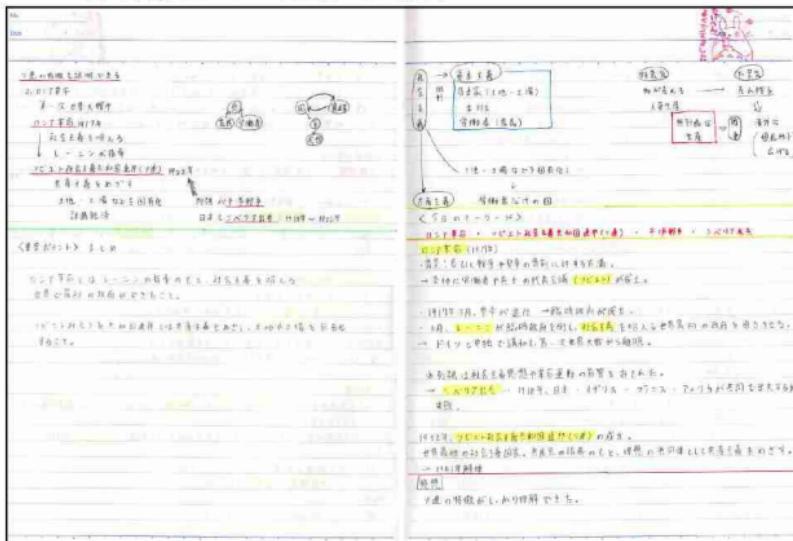
第二次世界大戦の特徴
 1. 連合国と同盟国との陣営による戦争
 2. 破壊的戦争
 3. 破壊的戦争
 4. 破壊的戦争

「ロシア革命」のノート

作者「M・Y」：教科書の解説を取り入れて整理しています。左側のスペースに「感想」などを書き入れたり、授業のポイントなどの書き込めば、A°でした。



作者「Y・K」：ポイントを簡潔にまとめています。強調する部分も控えめな色の使い方で、見やすいノートになっています。



「国際協調の高まり」のノート

作者「K・Y」：重要ポイントをまとめたり、キーワードを簡潔に説明しています。
国際連盟と第2次世界大戦後の国際連合を比較しています。

ノートの構成：

- 第一回世界大戦後の国際連合と国際連盟**
 - ①国際協調の歴史
 - 第一次世界大戦
→ フォーラン
→ オランダと大英連邦
→ ドイツ→日本連合
 - ②国際連合の誕生
→ マルタとイギリス
→ ダイアナとジョンソン
→ ハーディングとルーズベルト
→ ルーズベルトとジョンソン
 - ③国際連盟の歴史
→ マルクスとカーティス
→ チーフン
→ ライアード
→ ライアードとマーティン・ガブリエル
 - ④第一次世界大戦と第二次世界大戦
→ マルクスとカーティス
→ チーフン
→ ライアード
→ ライアードとマーティン・ガブリエル
 - ⑤第一次世界大戦と第二次世界大戦
→ マルクスとカーティス
→ チーフン
→ ライアード
→ ライアードとマーティン・ガブリエル
- 国際連合の歴史**
 - アメリカとソビエト連邦によるシカゴ会議により設立された組織
 - 目的は日本の第二次世界大戦（ヨーロッパ戦争）の終結後、世界の平和と秩序を維持するため
 - 現在は国際連合の前進となり主として政治的問題から、現在の世界をよりよくするための活動を始め、それが国際連合が主張するレジオナリズム運動の発展
- 国際連合**
 - アメリカとソビエト連邦によるシカゴ会議により設立された組織
 - 目的は日本の第二次世界大戦（ヨーロッパ戦争）の終結後、世界の平和と秩序を維持するため
 - 現在は国際連合の前進となり主として政治的問題から、現在の世界をよりよくするための活動を始め、それが国際連合が主張するレジオナリズム運動の発展
- 問題**
 - 国際連盟は上級アーバン化を主張したが、それは多方面で多方面で失敗していった。

作者「Y・K」：板書の下に重要ポイントを明確にまとめています。重要語句をもう少しぱいねいに教科書などを読んでまとめるよとA°でした。

「アジアの民族運動」のノート

作者「M・T」：ポイントを簡潔にまとめています。感想で自分の思いを記録し、思い出しやすくしています。インドの抵抗の歴史について簡潔にまとめています。

4. アジアの民族運動

感想

- インドは、長い歴史と豊かな文化を持った国で、その歴史と文化が世界に影響を与えてきました。
- インド民族運動には、大英帝国の植民地化に対する抗争（非暴力不順徳運動）と、ガンダリーハウスの指導によって生まれた「不順徳」（非暴力）が特徴的です。イギリスに対して完全な自立や政治的統治を実現するところまで達しました。人権的権利を主張するところまで達しました。カーディナルもよく「これが最高の民族運動だ」と評価していました。
- マハトマ・ガンダリーハウスは、非暴力による民族運動を実現しました。それが成功的な民族運動となりました。

5. 五四運動 = 「二十一ヶ条の要求」

事件 三一独立運動。暫定政府宣言

期間	日本	朝鮮	中国	ベトナム
1911	明治天皇崩御	韓國日占の始まり	新嘉坡開港	
1912	清國國運運動開始			
1919	五四運動（北京）	日韓日占強化		
1921	支那内戦（北伐）			
1927	南京国民政府成立			
1931	九一八事変（東北）	日韓日占強化	支那事變（上海）	支那内戦（北伐）
1937	支那事變（上海）			
1940	支那事變（南京）			
1945	戦勝国としての日本			

作者「S・I」：非常に見やすいノートです。需要ポイントも教科書を参考に簡潔にまとめられていてわかりやすい。感想文が輝いています。

4. 28 (木)

4. アジアの民族運動

感想

- インドは、多様な文化（ヒンドゥー教、イスラム教など）を持つ国で、その多様性が豊かな文化を育んでいます。
- インドの民族運動は、ガーンドーハルの指導によって生まれた「非暴力不順徳運動」が特徴的です。
- 二十一ヶ条の要求…満州での権益の拡大！
- 五・四運動…帝國主義に反対する国民運動。（中国）
- 三・一独立運動…日本からの独立を宣言するアモ行進。（朝鮮）

「朝鮮独立」

→ 朝鮮は、独立運動に共感していた日本人の一人、朝鮮の「おおきなことを評議會」をもつてそれを生み出す人々を守りました。

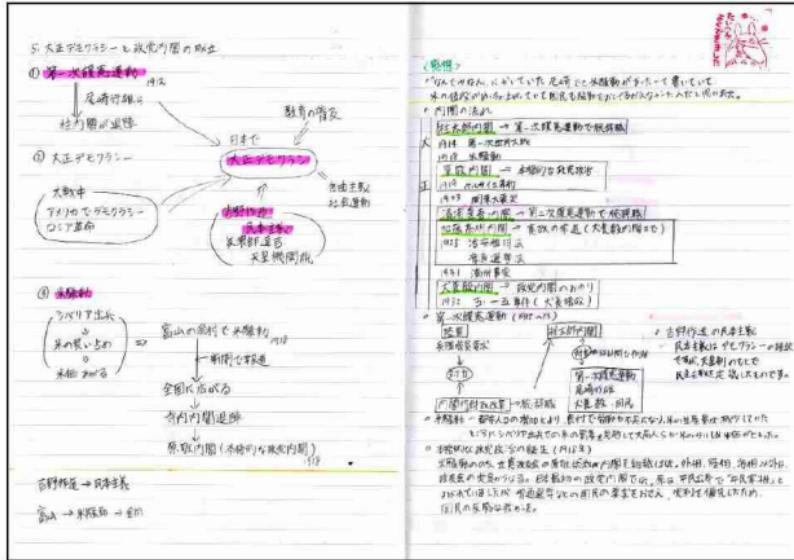
→ 朝鮮は、日本文化や中國文化を尊重した人々

感想

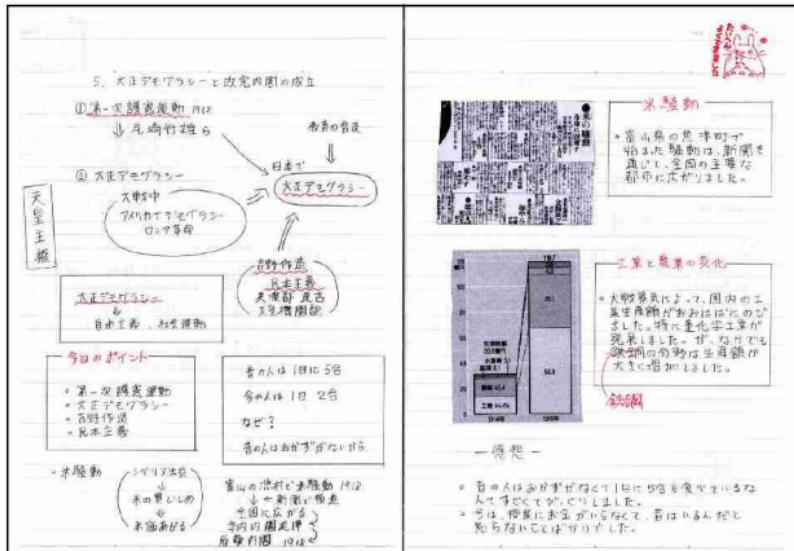
日本は調子にのって、中国や朝鮮半島へ身を乗り出して、「おおきなことを評議會」をもつてそれを生み出す人々を守りました。

「大正デモクラシーと政党内閣の成立」のノート

作者「M・T」：ていねいにまとめられた力作です。ただ、詳細すぎて理解するのが難しいと思います。もう少し簡潔にした方が使いやすいでしょう。

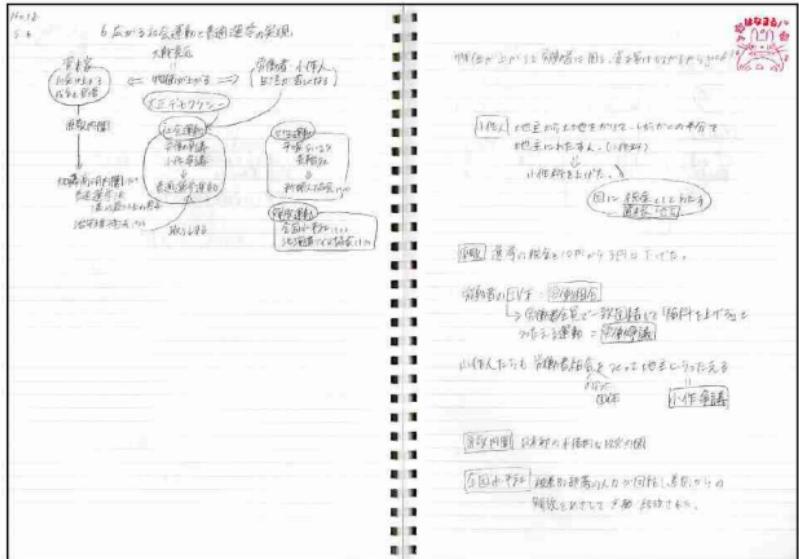


作者「K・I」：とても見やすくまとめられたノートです。大戦景気を教科書のグラフのコピーを使ってまとめたアイデアは良かったと思います。



「広がる社会運動と普通選挙の実現」のノート

作者「N・K」：授業中の話題をていねいに記録しています。これで、語句の意味を教科書などを使って整理しているとA[○]になるノートでした。



作者「M・M」：非常にていねいにまとめられたノートです。まとめ方もコンパクトで分かりやすいノートです。色ペンが控えめで見やすいのもいいですね。

